

韓国海軍哨戒艦「天安」沈没事案に関する合同調査団の調査結果の公表までの経過

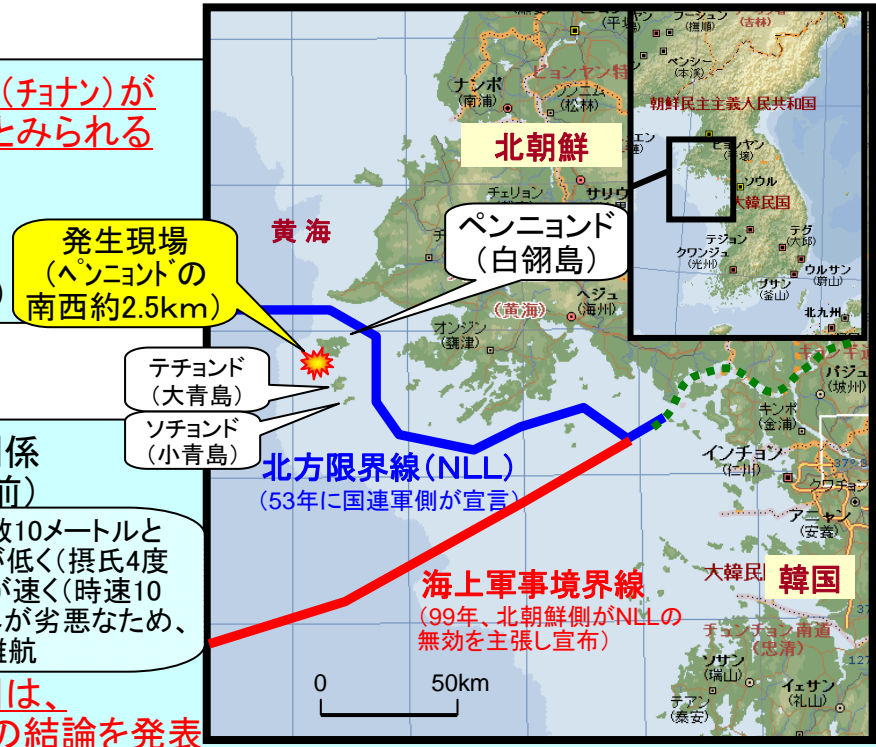
1. 事案の概要(韓国国防部発表等)

- 10年3月26日(金)夜21時22分頃、韓国海軍の哨戒艦「天安」(チョン)が北方限界線(NLL)付近の黄海上を警戒中、原因不明の爆発とみられる事案が発生
- 同艦はその後に沈没
- 乗組員104人中、58人が救助されたが、46人が行方不明(その後の引き揚げにより、40人の死亡確認、6人が行方不明)

2. 韓国政府の対応状況(一般報道等)

- 李明博(イ・ミョンバク)韓国大統領は、事案発生直後から安保関係長官会議を計4回召集(3月26日夜、27日午前・午後、28日午前)
- 3月28日、船体の一部を発見
- 4月4日、本格的な引き揚げ作業に着手
- 4月15日、艦尾部分を引揚げ
- 4月24日、艦首部分を引揚げ
- 5月20日、米、英、豪、スウェーデンを含む軍民の合同調査団は、北朝鮮の小型潜水艦艇から発射された魚雷により沈没したとの結論を発表
- 5月21日、韓国政府は、国家安全保障会議を開催
- 5月24日、李大統領は、国民向けの談話を発表


現場海域は、水深数10メートルと浅いものの、水温が低く(摂氏4度前後)、また、潮流が速く(時速10キロ前後)海中視界が劣悪なため、捜索・救助活動が難航



(参考1) 合同調査団の構成

民間共同調査団長：尹徳竜(ユン・ドギョン) 韓国科学技術院新素材工学科名誉教授

韓国側	韓国軍人 × 22名	① 科学捜査、 ② 爆発類型分析、 ③ 船体構造管理、 ④ 情報分析、 の4分科会で調査
	民間専門家 × 25名	
	国会が推薦した専門委員 × 3名	
外国専門家	米国 × 15名	
	豪州 × 3名	
	英国 × 2名	
	スウェーデン × 4名	
合計	74名	(資料源: 調査団発表資料等)



尹徳竜(ユン・ドギョン)
共同調査団長

(参考2) ポハン級哨戒艦主要諸元

排水量	: 1,220t(満載)	 <p>「天安」の同型艦「原州」(ウォンジュ)</p>
最大速力	: 32ノット	
乗員	: 95名(士官10名)	
全長 × 全幅 × 喫水	: 88.3m × 10m × 2.9m	
主機	: ガスタービン × 1、ディーゼル × 2	
兵装	: 対艦ミサイル、76mm砲、30mm(又は40mm)機関砲、爆雷、魚雷発射管	
備考	: 84-93年にかけて24隻就役。「天安」は89年就役	
	(資料源: Jane's Fighting Ships 2010)	

合同調査団の調査結果(5月20日公表)①

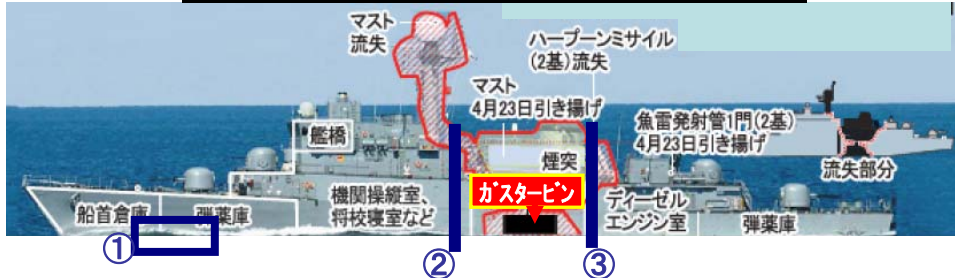
【1. これまでの合同調査団による調査・分析の結果】

- ◎ 「天安」は、魚雷による水中爆発によって発生した衝撃波とバブル効果により切断されて沈没
- ◎ 爆発位置は、ガスタービン室の中央から左舷側3m、水深約6～9mの場所
- ◎ 兵器システムは、北朝鮮で製造した高性能爆薬250kg規模の魚雷

○ 判断理由

<ul style="list-style-type: none"> ・ 衝撃波とバブル効果により、船体の竜骨が上方に大きく変形 ・ 外板は激しく折れ、船体に破断した部分あり ・ 主甲板は、大型開口部の周囲を中心に破断し、左舷側が上方に大きく変形 ・ ガスタービン室の隔壁が大きく損壊し変形 ・ 船首、船尾の船底が下方から上方に折れる 	} 水中爆発を立証	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決定的な証拠物：魚雷の推進動力部であるプロペラを含む推進モーターと操縦装置等を回収 ・ 北朝鮮の輸出用紹介資料の設計図に示されたサイズと形態が一致 ・ 推進部の後部内側にある「1番」というハンゲル表記は別の北朝鮮の魚雷の表記方法と一致 	} 回収した魚雷の部品が北朝鮮で製造されたことを確認
<ul style="list-style-type: none"> ・ 船の安定器に強い圧力の痕跡あり ・ 船底部分に水圧及びバブルの痕跡あり ・ 電線の切断等に熱の痕跡なし 	} 水中爆発による強力な衝撃波及びバブル効果が艦艇の切断・沈没の原因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生存者はほぼ同時に爆発音を1～2回聞く ・ 左舷の見張員の顔に水がかかったとの証言 ・ ペンニョン島の歩哨が2～3秒間、高さ約100mの白い閃光の柱を観測したとの証言 	} 水中爆発により発生する水柱の現象と一致
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺体の検死の結果、火傷等ではなく、骨折及び裂傷等を観察 ・ 地震波は4か所で震度1.5の規模で感知 ・ 空中音波は11か所で1.1秒間隔で2回感知 	} 水中爆発による衝撃波及びバブル効果の現象と一致	<ul style="list-style-type: none"> ・ シミュレーションの結果、水深約6～9m、ガスタービン室の中央から概ね左舷3mの位置で、爆発量200～300kg規模の爆発があったと判断 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ ペンニョン島近海の潮流を分析した結果、魚雷を使用した攻撃は制約を受けないと判断 	

「天安」の艦内構造のイメージ(資料源:朝鮮日報HP)



合同調査団の調査結果(5月20日公表)②

【2. 米国、豪州、カナダ、英国等5か国の「多国籍連合情報分析チーム」により確認された事実】

○ 北朝鮮軍の能力

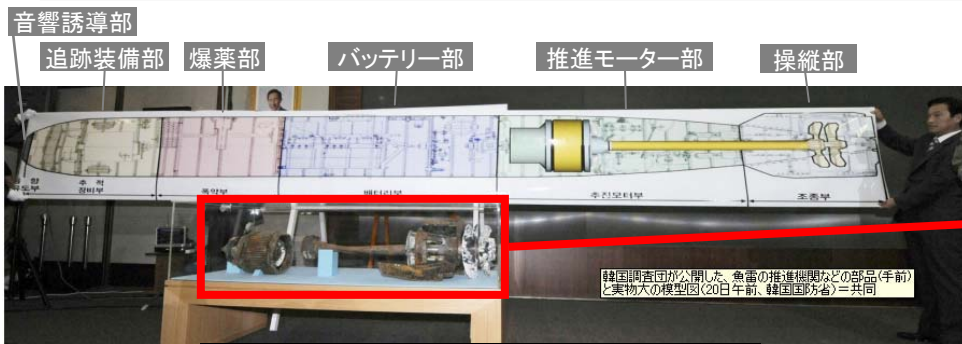
- ・ 北朝鮮軍は、**計70隻余の潜水艦及び潜水艇を保有**(ロメオ級潜水艦(1,800トン級):20隻余、サンオ級潜水艦(300トン級):40隻余、ヨノ級(130トン級)を含む小型潜水艇:10隻余、等)
- ・ **「天安」の被害と同一規模の衝撃を与えられる様々な性能の魚雷を保有**
- ・ 事件発生海域の作戦環境条件で運用する**水中兵器体系は小型潜水艦艇と判断**

○ 事案発生前後の状況

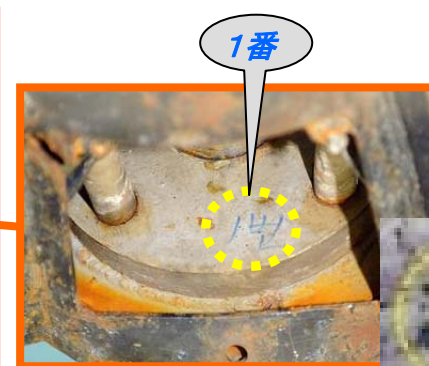
- ・ 黄海の北朝鮮海軍基地で運用されていた**一部小型潜水艦艇とこれを支援する母船が攻撃前2~3日前に黄海北朝鮮海軍基地を離脱し、攻撃の2~3日後に基地に帰還したことを確認**
- ・ **他の周辺国の潜水艦艇は、すべて自国の母基地又はその周辺で活動していたことを確認**

○ 回収物の分析

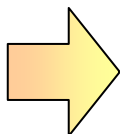
- ・ 5月15日に爆発地域付近で底引き網漁船が回収した**プロペラ、推進モーター及び操縦装置は、北朝鮮の輸出用兵器紹介冊子にあるCHT-02D魚雷の設計図面と正確に一致**
- ・ 魚雷の後部推進体内部から発見された**「1番」というハンゲル表記は、韓国が確保している別の北朝鮮製魚雷の表記方法とも一致**
- ・ **CHT-02D魚雷は、音響航跡及び音響手動追跡方式を使用し、直径21インチ、重量1.7トン、炸薬量250kgに達する長魚雷**



回収した魚雷の部品(下)と実物大模型図(上)
(資料源:日経新聞HP、産経新聞HP)



(参考)韓国が過去に回収した北朝鮮魚雷に記された表記
(資料源:聯合=共同)



- **「天安」は、北朝鮮製の魚雷による外部の水中爆発の結果、沈没**
- **この魚雷は、北朝鮮の小型潜水艦艇から発射されたとする以外の説明はできない**

李明博(イ・ミョンバク)韓国大統領及び金泰栄(キム・テヨン)韓国国防部長官による談話等の概要(5月24日)

1. 李大統領による談話(5月24日)

- 天安艦の沈没は、韓国に対する攻撃であり、北朝鮮による軍事挑発
- 国際社会の責任あるいかなる国も、本件が北朝鮮の行為である事実を否認できない
- 以下の断固とした措置を実施
 - ・ 北朝鮮船舶の韓国海域・海上交通路の利用禁止
 - ・ 南北間の交易及び交流を中断(乳幼児への人道的支援は維持)
 - ・ 北朝鮮のいかなる挑発も許さず、積極的な抑止の原則を堅持
(北朝鮮が韓国の領海、領空、領土を侵犯する場合、直ちに自衛権を発動)
 - ・ 国連安保理への付託
- 北朝鮮に対し、謝罪及び関係者の処罰等を要求
- 韓国の究極的な目標は軍事的対決ではなく、朝鮮半島の安定と平和
- 軍も過ちがあったと認めざるを得ない。今回の事態を機会に、確固たる安保体制を構築
 - ・ 軍の綱紀を改めて確立し、軍改革を加速化
 - ・ 軍の戦力を画期的に強化
 - ・ 堅固な米韓同盟を土台に、米韓連合防衛態勢を更に強固にする
 - ・ 韓国国民の安保意識を向上

2. 金国防部長官による発表(5月24日)

- 5月24日から、過去6年間中断していた対北心理戦を再開
- 北朝鮮船舶の韓国海域の運航を全面不許可
- 近いうちに黄海で米韓連合対潜水艦訓練を実施
- PSIの精神に則り、北朝鮮の核・大量破壊兵器の拡散を積極的に遮断するため、域内外の海上遮断訓練を準備
- 韓国軍は、今後の北朝鮮の反応・態度に応じて、必要な軍事的・非軍事的措置を実施
- 「天安事案」を教訓として、敵の多様な挑発類型を考慮して対応態勢を補完し、実戦的な訓練を実施することにより韓国軍をさらに強化

(参考1)韓国国家安全保障会議(5月21日)の概要

- 「天安」沈没事案に関し、①国際協調の強化案、②韓国軍の対応態勢、③南北関係と国家信任度の管理、④サイバーテロを含むテロ等北朝鮮の非対称脅威に備えた国家の対応態勢などについて集中的に審議
- 李明博大統領の発言概要
 - ・ (本事案は、) 軍事的な挑発行為。国連憲章、休戦協定、南北基本合意書に違反
 - ・ 深刻かつ重大な事案であるので、韓国が対応するあらゆる措置事項は、一寸の間違いもなく、非常に慎重にしなければならない

(参考2)韓国統一部による対北朝鮮措置(5月24日発表)の概要

- 北朝鮮船舶の韓国海域の運航を全面不許可
- 南北交易を中断
- 韓国国民の訪朝を不許可
- 北朝鮮に対する新規投資を不許可
- 対北朝鮮支援事業を原則的に保留
(乳幼児等への支援は維持)

(資料源:韓国政府HP)

合同調査団の調査結果に対する各国等の反応(概要) (5月24日(日本時間)現在)

1. 北朝鮮

- 「天安」沈没の原因調査結果は捏造。
- 韓国に(北朝鮮)国防委員会の検閲団を派遣。韓国側は北朝鮮側の検閲団に物証を見せねばならない。
- 対北朝鮮制裁などがとられる場合、全面戦争を含めた強硬措置をとる。 【国防委員会報道官声明(5月20日付け)】
- (調査結果は)北南関係を全面破棄するとの宣言であり宣戦布告だ。 【労働新聞(朝鮮労働党機関紙)論評(5月24日付け)】

2. 米国

- 米国は、乗員の死につながった攻撃を強く非難(*strongly condemns the act of aggression*)。
- 攻撃は、北朝鮮による許容しがたい行動と国際法への挑戦の更なる事例。
- 攻撃は、国際の平和と安全に対する挑戦(*a challenge to international peace and security*)及び休戦協定違反を構成。
- 大統領は、5月17日李(韓国)大統領と会談し、米国は、韓国を完全に支持することを明確にしている。
- あらゆる挑発に対して地域の平和と安定を守るため、近隣諸国は協力を強化する決意を強める。 【ギブス・ホワイトハウス報道官声明(5月17日付け(ママ))】

3. 中国

- 事件の適切な処理と朝鮮半島の平和維持は関係国の利益に合致する。
- 六者会合再開の条件づくりに関係国は努力してほしい。 【崔天凱外務次官記者会見(5月20日)】
- 調査結果を注目しており、評価を進めている。
- 関係国は冷静かつ適切に問題処理し、情勢緊迫化を避けるべき。 【馬朝旭外務省報道局長記者会見(5月20日)】

4. ロシア

- 調査結果を詳細に検討するまで論評できない。
- ロシアには説得力のある証拠はまだ提供されていない。 【ネステレンコ情報局長発言(5月20日)】

5. 豪州

- 相手方の挑発に基づかないこの敵対行為は、国連憲章及び1953年の休戦協定に対する北朝鮮の目に余る違反(*flagrant violation*)。
- 国際社会は、この行為に対する適切な対応なしに看過することはできない。 【ラッド首相発言(5月20日付けロイター)】

6. 国連

【潘基文国連事務総長声明(5月20日付け)】

- 調査結果を悲しみと深刻な懸念(*serious concern*)をもって受け止めた。
- 国内外の専門家によって客観的、科学的な方法で調査した韓国政府の節度ある忍耐強い取組を評価。
- 調査報告に述べられている事実は、深く憂慮すべきもの(*deeply troubling*)。事態の進展を注視。

(資料源:各種報道等)

5月20日付け総理大臣コメント及び防衛大臣からの指示内容

総理大臣コメント(5月20日)

(韓国哨戒艦沈没事案に関する韓国側の調査報告発表について)

平成22年5月20日

1. 3月26日に発生した韓国海軍哨戒艦「天安(チヨン)」の沈没事案に関し、本日、韓国政府は事案発生以来行ってきた合同調査の結果報告を公表した。この機会に改めて46名の犠牲者及びその家族の方々にお悔やみを申し上げる。
2. 我が国は、この調査が、韓国軍民並びに各国の専門家も参加した形で科学的かつ客観的に行われたことに敬意を表する。韓国政府は、調査報告において、本件事案は北朝鮮による魚雷攻撃であったと判断される旨を明らかにした。
3. 調査内容については、事前に韓国側より十分に説明を受けてきた。これを踏まえ、我が国としては、韓国を強く支持するものである。北朝鮮の行動は許し難いものであり、国際社会とともに強く非難する。今後の対応にあたっては、地域の平和と安定のため、韓国及び米国を始めとする関係各国と引き続き緊密に連携・協力していく考えである。

防衛大臣からの指示内容(5月20日ピンナップ資料)

韓国哨戒艦沈没事案に関する韓国側の調査報告発表についての総理大臣コメントを踏まえ、本日午後、防衛大臣から省内関係幹部に対し、以下の指示があったのでお知らせします。

- 自衛隊の態勢について改めて点検すること
- 引き続き情報収集に努めること
- 警戒監視活動に万全を期すこと

北朝鮮の保有する潜水艦及び魚雷

1. 潜水艦

名称	ロメオ級SS	サンオ級SSC	ユーゴ級SSW
写真			
保有数	23隻	32隻	23隻
排水量	1,830t(水中)	277t(水中)	110t(水中)
全長	約77m	約36m	20m
最大速力	13ノット(水中)	8.8ノット(水中)	8ノット(水中)
航続距離	9,000海里(9ノット水上)	2,700海里(7ノット)	50海里(4ノット水中)
兵装	魚雷(SAET-60、T 53-56の可能性)×8-21 機雷×28	魚雷(T 53-56の可能性)×2/4-21 機雷×16	魚雷発射管×2
乗員	54名(士官10名)	19名(士官2名)、潜水員6名	4名、潜水員6-7名
主機	ディーゼル・電気推進	ディーゼル・電気推進	ディーゼル
備考	攻撃用潜水艦	浸透作戦用。96年9月、韓国の日本海側沿岸で座礁。イランへ売却され、ヨノ級の原型となったとされる	浸透作戦用。98年6月、韓国の日本海側沿岸に侵入

2. 魚雷

名称	Type 53-56 (旧ソ連製)	Yu-4 (SAET-60) (中国製)	CHT-02D
全長	7m	7.8m	約7.3m
重量	2,000kg	不明	1,700kg
炸薬量	400kg	400kg	250kg

ヨノ級SSM

排水量 : 123t
 全長 : 29m
 最大速力: 不明
 乗員 : 7名
 兵装 : 魚雷×2-21

